

シンポジウム技S-2 日本臨床工学技士会が認定する「高気圧酸素治療専門臨床工学技士制度」によせて

小森恵子

東海大学医学部付属病院 診療技術部臨床工学技術科

【はじめに】

近年多くの医療施設では、臨床工学技士（以下CE）は専任あるいは専従で一業務を担当することなく、多くの業務を兼任またはローテーションして勤務する傾向にある。一方、医療機器の多様化、高度化の進行が目覚ましく、その弊害として医療機器の管理、操作に起因する医療事故の増加が憂慮されるようになった。厚生労働省より平成20年9月「新医療機器・医療技術産業ビジョン」公布を受け、日本臨床工学技士会（以下日臨工）では、血液浄化・不整脈治療・呼吸治療・高気圧酸素治療（以下HBO）の4業務につき、医療機器管理・操作に対する深い専門性を有し、指導できる専門臨床工学技士（以下専門CE）の育成を検討し認定制度構築を計画した。

平成20年、血液浄化関連5学会より選出された委員からなる「透析療法合同専門委員会」との協議の結果、「透析技術認定士」の上位資格に位置付けられ「血液浄化専門CE」制度が発足した。本資格取得・更新に要する単位は、血液浄化関連15以上の学会・研究会に参加することで取得できる。不整脈治療分野については既存資格が無い。しかし他業務との整合性を図り、第I期指定講習会受講・検定試験合格・第II期指定講習会受講後「不整脈治療専門CE」認定という形態で平成20年発足した。本分野でも9学会・研究会で単位を発行している。

平成23年、呼吸治療分野関連3学会から選出された委員からなる「3学会合同呼吸療法認定士認定委員会」との協議の結果、「3学会合同呼吸療法認定士」の上位資格に位置付けられ「呼吸治療専門CE」制度が発足した。10以上の学会・研究会が単位を発行している。

【HBO専門CE】

HBO関連3学会間には合同委員会が無い。また

2つの学会認定資格間で難易度評価がされておらず、「HBO専門CE」の位置づけに苦慮した。また他の3業務に比してHBO関係医療者数が少ないため、専門CE事業継続の可否について検討したが、将来におけるHBOの発展を期待して事業継続を決定した。関連3学会に個別に協議を働き掛け、他の専門CE制度との整合性を図りつつ、HBOがおかれた状況を考慮し、既存の学会認定資格を専門CE取得・更新に要する単位とし、資格間の位置づけをしないことで、平成25年度「HBO専門CE」制度の発足を予定している。

平成24年4月、日臨工は公益社団法人格を取得し、平成25年度より専門CE認定事業のうち講習会と試験事業を公益事業に制度変更する。検定試験への変更により、日臨工非会員の指定講習会の受講及び検定試験受験が可能になる。

HBO専門CEの指定講習会については、生涯教育の一環として、またチーム医療参画にあたり広範囲かつ最新の医療知識を得る機会拡大が重要と考え、科学基礎分野に加え、生理学・臨床検査・他の治療との併用分野を含めてレベルアップを図る。本事業の継続にあたり、日本高気圧環境・潜水医学会と高気圧酸素治療技術部会には、専門知識と人材、施設ネットワークという資源とサービスを活用できる「アウトソーシング」として日臨工との協調関係構築を期待する。

【HBO専門認定事業に対するビジョン】

中長期将来に向けたHBO専門認定事業の方向性として、指定講習会受講と検定試験受験の対象者には、CEと看護師に加えて、ダイビングインストラクターや海難救助にあたる消防官、警察官も視野に入れて考えることにより、講習会受講者層の拡張によりHBOの認知度拡大が期待できる。一方、専門CEに求められる役割としては、施設において更なる治療の質と安全性の向上を図りチーム医療参画を成す事。地域においては指導者として生涯教育活動に参画し、学術研究分野に寄与し、将来診療報酬改定が成ったときに、HBOの飛躍を支える中核となる事である。